



小学校英語必修化は、なぜ危ういのか（前編）

鳥飼 玖美子（経営学部／異文化コミュニケーション研究科教授）

「小学校英語必修化」という中間答申が、中教審外国語部会から出されました。これまで「総合学習・国際理解」教育の枠内で進められてきた英会話活動は、各校で頻度や内容が千差万別なことから中学での混雑が必至のため、全国一律に必修化する、という提案です。

小学校英語推進の背景には、グローバル化による「英語優位主義」的発想、「親の英語コンプレックス」、さらに財界からの要請があります。これらが相まって政治を動かす怒涛の如くなっているのを食い止めるのは至難ですが、小学校段階での英語導入について根本的な問題があることだけは知って欲しいと考え、『危うし！ 小学校英語』（文春新書）を刊行しました。簡単に要約すると、三つの点に集約されます。

第一に、正確な現状把握なしに進む危うさです。1989年学習指導要領改訂以来、学校英語教育は会話中心に大きく舵を切ったことを知らず、「読み書きばかりやるから学校はダメだ」と批判する人の何と多いことか。「TOEFLスコアが低い」ということが騒がれていますが、マスコミをはじめ誰も「スコアの何が低いのか」を知ろうとしません。リスニングよりも読み書きが弱い、足を引っ張っているのは「コミュニケーションに使える英語」を学んだはずの若い世代

であること、などの事実を分析しないまま、リスニング・テストをセンター入試に導入したり、小学校で英語を始めるのは、問題解決にはつながりません。

第二に、小学校英語推進の論拠は、いくつもの幻想に支えられています。特に深刻なのは、「英語は早ければ早いほど身につく」という幻想です。言語の獲得は思春期までで終わる、という「臨界期」説については研究者間でも意見が分かれていますし、母語に関して言われる臨界期が外国語学習に当てはまるのかも疑問です。日本で英語を学ぶにあたっては、第二言語としてではなく外国語として学習すること、児童期に学んだ英語はあくまで「子どもの英語」であり、仕事で使えるようにする為には、いつかの時点できちんと学習し「おとなの英語」に脱皮する必要があります。週1回程度の小学校英語で、使える英語には到達しないのですが、早くやれば苦勞せずに英語をものにできると素朴に信じている親たちの過剰な期待が、子どもへの圧力となることを危惧します。（次号へ続く）



Laboratory

経済学部「坂本雅士ゼミ」

出会いのステージで

ゼミ生・横川 隆志（会計ファイナンス学科4年次）さんに聞きました！

坂本ゼミではどんなことをするの？

研究テーマは「税務会計論」。2年次に主に税法の基本原則を学び、税務会計を研究していくうえで必要な簿記、会計学の勉強もします。3年次にはそれまで培った「勉強」による

知識を「研究」へと発展させるべく共同研究を行います。また、2・3年次を通して全国大学対抗簿記大会への参加、特別講座での税理士、公認会計士の方との交流など幅広い活動を続けています。

横川さんにとって、坂本ゼミとは？

一言で言うと「出会いの場」です。

「サークルでもなくアルバイトでもない、大学生活の中心となる場所がほしい。」この思いから坂本ゼミナールに入室しました。坂本先生の「ゼミは研究の場であると同時に“出会いの場”です。」という言葉通り、2年次には多くの出会いを経験しました。体育会の活動や



2006年度春季簿記大会にて

資格取得など様々なフィールドで活躍し、個性を持った仲間との出会いです。多様な価値観があるからこそ、一つの組織として活動していくことの面白さを深く感じました。また、人との

出会いに限らず、全国大学対抗簿記大会優勝という明確な目標と、それを達成できた時の喜びとも出会うことができました。

共同研究はどういうふうに行うの？

3年次から始まります。毎週火曜日のゼミの時間には、夕方から夜の10時頃まで各ゼミ生が執筆した論文の読み合わせとプレゼンの予行演習が行われます。ぼくの場合はそれ



共同研究風景

以外の日は図書館に籠り、文献を読み漁る日々を過ごしました。その結果、満足のできる論文が完成し、オープンゼミでのプレゼンには、真剣なまなざしで発表を聴く大勢の1年次生の姿がありました！

先生が日頃から「与えられたテキストに従って知識を習得することは『勉強』であり、『研究』とは勉強で得た知識をもとに、未知の真理を追求する知的作業です。」とおっしゃっていた真の意味を、共同論文の作成を通して知りました。打ち上げで飲んだビールの味は今も忘れません。

最後に一言。

坂本ゼミナールは2002年に誕生した歴史の浅いゼミです。であるからこそ、簿記大会への参加、特別講座の実施、OB会の開催など次々と新しいことへ取り組んでいけるゼミなのです。坂本ゼミの今後にご期待下さい！